

ふりがな 氏名	かわた ひかる <b>川田 晃</b>	都道府県	<b>岡山県</b>	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山大学教育学部学校教育教員養成課程中学校教育コース美術専修</li> <li>・ESD グローカル Café</li> </ul>			
私のESD活動	<b>多国籍・多世代の人々とグローバルな視点で社会問題の解決策を思考することで岡山の多文化共生を図る</b>			
ESD活動を表すキーワード	<b>多国籍・多世代とのつながり</b>	<b>カフェでディスカッション</b>	<b>岡山大学地域総合研究センター 岡山市 ESD 推進協議会公認</b>	

**活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）**

カフェというリラックスした空間で持続可能な開発に向けたテーマを設定し話し合うことで、地域の人(社会人)や学生、留学生など世代や立場を越え、多様な文化的背景を持つ人々の交流の場をつくり、グローバルな思考とローカルな行動を結びつけ、岡山における持続可能な開発のための課題を共通に認識し、共に解決に向かう姿勢を育むことを目的とした「ESD グローカル Café」を企画している。

現在、岡山の ESD 推進協議会および環境学習センターアスエコの主催で「ESD カフェ」が開催されているが、学生の参加や、外国人の参加は少ない。本プロジェクトでは、多国籍・多世代の参加者と気軽に意見を交わすことができる。地域内においてのみの、日本人の価値基準においての「多様性」の範囲から抜け出し、広い範囲での多様な視点や価値観を獲得する。授業や文献、ネットから得た知識に、地域に根差した生きた知識を結びつけ地域に還元する。普段地域の人と交流する機会はあるが、何か共通の価値を創り出すのではなく、一時的に取り留めのない会話をしていることが多い。単発的な交流ではなく課題解決型の多世代・異文化間コミュニケーションをとることで非日常で知的な交流となり、学外とも密接につながることができる。大学が独立した学びの場ではなく、地域に根差した学びの場となり、生活の中でこれからの社会を学んでいけたらと思う。

第1回目は「多文化共生は可能か」についてディベートを行った。第2回目は「留学の意義」。留学生や学生、大学や市の教職員、地域の人々が参加した。第3回目は「開発途上国への支援の在り方」。岡山ユニセフ協会や国際協力NPOの方を含む様々な立場の人に参加して頂いた。

・おokayama ESD なび <http://www.okayama-tbox.jp/esd/>

**ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？**

ますますボーダレス化していくグローバル社会において、様々な文化の中で自分の能力を発揮できることは重要なことである。私自身海外旅行や転校の経験により、「異文化」に適應すること、受容することの難しさを幾度となく実感した。多文化共生もいずれ帰ることを前提とした一時的な交流ではない。持続可能な開発のために問題意識を共有している共同体のような状態のことを言うのだと思う。このような状態をカフェでつくり出したい。岡山のように、自然環境的にあまり負荷がなく、周囲の人との協力を要せずとも最低限生きていける環境の場合、異文化を受け入れることに摩擦を感じるかもしれない。しかし、これからの持続可能な開発には国内外問わず異文化から新しい価値を地域社会に取り入れることが必要不可欠である。岡山大学はスーパーグローバル校にも指定されており、グローバル化を肌感じられる環境である。大学と地域とをより密接につなげていきたい。